

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	さわやか愛の家ひた館			
○保護者評価実施期間	2025年12月15日 ~ 2026年1月5日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23名	(回答者数)	18名
○従業者評価実施期間	2025年12月15日 ~ 2025年12月29日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月9日			

## ○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	PT（理学療法士）などの専門職と保育士が連携し、子ども一人ひとりの特性や発達段階に合わせた個別支援と、社会性を育むための集団活動の両方をバランスよく提供している。個別と集団の両面から支援できる体制が整っていることが、当事業所の大きな強みだと思われる。	専門的な視点から身体機能や動作の課題にアプローチしつつ、保育士が日常生活や遊びの中での関わりを丁寧に積み重ねることで、子どもが安心して参加できる環境を整えている。 職員のそれぞれの強みを活かした集団活動を立案する事が出来ている。	専門職の目線やねらいを職員間で共有する機会や勉強会の頻度を増やしていく。また、毎日のミーティングや記録共有を通して、子どもの状態や変化をスタッフ間で共有し、支援内容を柔軟に調整していく。
2	昼食レクやおやつレクを積極的に実施している。	子どもたちの年齢や特性に合わせて、作業工程を細かく分けて参加しやすくしている。季節行事や子どもたちの興味に合わせたメニューを取り入れている。安全面に配慮し、道具の選び方や配置を工夫している。食材に触れる・匂いを感じるなど、五感を使った体験を大切にしている。食事のマナーや衛生面について、自然に学べるような関わりを意識している。	子どもたちからのリクエストを取り入れ、メニューの幅を広げる地域の食材や行事と連動したレクを増やし、学びの機会を深める。保護者との情報共有を強化し、家庭との連携を図りながら活動内容を改善する。
3	地域交流の充実を図っている。	長期休暇を利用して地域の子ども会との交流イベントを実施し、地域の子ども同士が自然に関わり合える機会を広げている。さらに、自立支援協議会こども部会へ積極的に参加し、地域交流に関する提案や意見交換を行う中で、他事業所の取り組みを参考にしている。	地域の自治会と連携し、季節ごとの共同イベントを企画する。公共スペース（図書館、地域交流センターなど）にも子どもたちの作品展示を広げる等イベントを企画していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ペアレントトレーニングの充実	スタッフの知識や経験が十分でなかつたり、日々の支援で忙しく、ペアトレにしつかり取り組む余裕が生まれにくいことがある。また、保護者の困り事を十分に把握できていないことも大きな要因として考えられる。相談しやすい雰囲気づくりが不十分、スタッフ側が聞き取りのスキルを十分に持てていない、といった点も挙げられる。	スタッフの学びの機会を増やしたり、相談しやすい雰囲気づくりや面談時間の確保などの工夫を行っていく。保護者向けの研修を実施する。
2	事業所内のスペースがやや狭いと感じてしまう事がある	子どもが成長して体が大きくなったり、利用人数や活動内容が増えたりしたことで、今の活動スペースでは手狭に感じるようになっている。また、道具が増えて動きにくくなっていることにも影響していると思われる。児童が使った物を適切に片付ける事が難しい場面が多々みられる。	エリアごとに分けて使ったり、動かしやすい収納家具を使ったりして、活動に合わせて空間を変えられるようにする。使用する物が片付けやすい様に構造化を図る事で、ご利用児童が自ら片付けやすく散らかりにくい環境にしていく。
3	関係機関との連携の充実	学校や他事業所との日常的な連絡体制が整っておらず、担当者会議以外で情報共有や相談を行う機会が少ないため、支援方針のすり合わせや子どもの状況把握が十分に行えず、結果として連携が不十分になっている。	担当者会議に加えて日常的な連絡や情報交換の場を意図的に設け、学校や他事業所と継続的にコミュニケーションを図る仕組みを整えることで、支援方針の共有や子どもの状況把握を円滑にしていく。